

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。

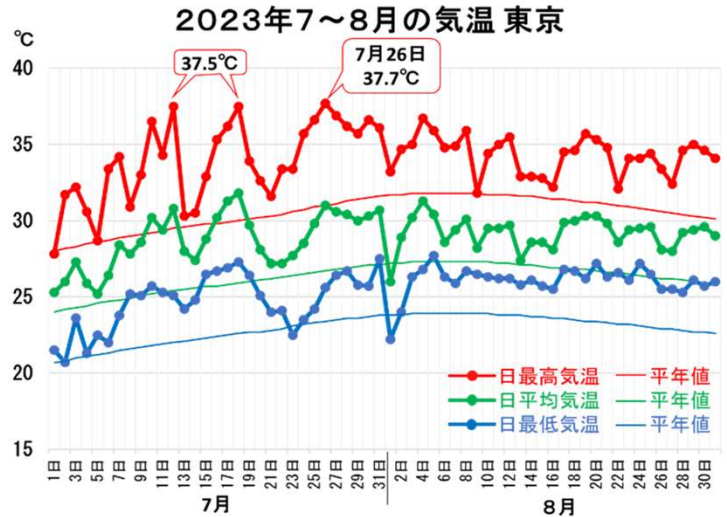


Yoshiaki Yano

“とんでもない”暑さでした

皆さま、この夏の暑さをどのように乗り越えられたでしょうか。太平洋高気圧の張り出しが強く晴れる日が多かったため、東京の気温は驚くほど高い日が続きました。昨年東京に発表された熱中症警戒アラートは9回、今年は8月末までに25回です。今回の話題は、今年7～8月の“東京の気温”にさせていただきました。

まず、右の日別気温グラフをご覧ください、細線は平年値です。日平均気温が平年値を下回ったのはなんと8月1日の1度しかありませんでした。東京の気温は、1875年以降



“149年間”の記録が残されています。月別で見ると、今年7月の平均気温は28.7°Cで1位、8月は29.3°Cで3位です。7月の日別最高気温を左表に示しました。26日は37.7°Cで5位、18日と12日は共に37.5°Cで、7位と8位を記録しています。なんと10位以内に3つも入り、大変驚いています。

7月の日最高気温の高い方から 東京 1875年～2023年 (149年)

順位	気温(°C)	年 月 日
1位	39.5	2004年 7月 20日
2位	39.0	2018年 7月 23日
3位	38.1	2004年 7月 21日
4位	38.1	2001年 7月 24日
5位	37.7	▶ 2023年 7月 26日
6位	37.7	1997年 7月 5日
7位	37.5	▶ 2023年 7月 18日
8位	37.5	▶ 2023年 7月 12日
9位	37.5	1961年 7月 15日
10位	37.3	1987年 7月 24日

日最高気温35°C以上の年間日数 東京 1875年～2023年 (149年間)

順位	日数	年
1位	22	▶ 2023年
2位	16	▶ 2022年
3位	13	▶ 2010年
4位	13	1995年
5位	12	▶ 2020年
6位	12	▶ 2019年
7位	12	▶ 2018年
8位	12	▶ 2013年
9位	11	▶ 2015年
10位	8	2001年

このような暑さから、日最高気温35°C以上の年間日数は右表に示すように、22日もあり1位、昨年(2022年)は16日で2位、いずれもこれまでの記録から“飛び抜けた”日数で、とんでもない記録

です。また地球温暖化もあって、149年間の順位記録に2010年以降が8つも占めていることにも注目です。

“異常気象だ”という言葉も耳にしますが、「異常気象」は、数十年間に1回程度の現象、人が一生の間にまれにしか経験しない現象を指し、一般では災害を起こすなど社会的に影響が大きい現象を呼ぶこともあります。気象庁では原則的に、ある地点・ある時季において30年に1回以下の現象を「異常」と定義しています。今年の暑さを149年間という長い年数から考えると、私たちはこれまで経験したことがない、未知の暑さに突入しているようにも感じられます。“危険な暑さ”とか“災害級の暑さ”とか呼ばれていますが、厚生労働省「人口動態統計(確定数)・人口動態統計月年計(概数)」などによると、2022年までの10年間における“自然災害による死者・行方不明者数”が1,859人に対して、熱中症による死亡者は10,391人で、驚くべき深刻な数になっています。

今年の暑さ、近年の暑さの背景には持続的な地球温暖化もあるでしょう、研究者などの成果発表に期待したいと思います。一方私たちは、それぞれが地球温暖化防止を更に推し進めていくことにしたいと思います。9月に入り残暑も和らぐ季節になって来ましたが、“喉元過ぎれば熱さ忘れる”とならないように・・・。